

2023年7月28日(金)

① 日銀

※参照:日経電子版

日銀は28日に開く金融政策決定会合で長短金利操作(イールドカーブ・コントロール、YCC)の修正案を議論する。長期金利の操作の上限は0.5%のまま据え置くものの、市場動向に応じて0.5%を一定程度超えることも容認する案が浮上している。国債の大量購入で金利を抑え込む政策運営を柔軟化し、市場のゆがみを和らげる狙いがある。

日銀は2022年12月に市場機能の改善を目的に、長期金利の上限を従来の0.25%程度から0.5%程度に拡大した。現在は上限の0.5%を超える前に国債を大量に買い入れて金利を抑え込んでいる。新たな案は0.5%の上限を維持した上で、市場動向によっては0.5%を超えることを認め、国債購入が過度に膨らまないようにする。

⇒ 本日午前2時に日経電子版で速報が流れました。

海外との金利差縮小が予想され、一気に円全面高となっています。

本日昼の日銀金融政策決定会合の発表が待たれます。

② ECB

予想通り主要政策金利を4.25%と0.25%利上げしました。

ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁のコメントは以下の通りです。

「短期的な景気見通しは悪化」

「サービス業の勢いは減速し、製造業も弱い外需によって抑制されている」

「基本的なインフレ率は全体として高水準を維持」

「経済とインフレの見通しは極めて不透明」

「いくつかの長期インフレ指標は上昇しており、注意深く監視する必要がある」

「今回の決定は全会一致だった」

「声明の文言の変更は無作為でも無関係でもない」

「9月以降の決定についてはオープンな姿勢で臨む」

「バランスシートの縮小については議論していない」

「9月に何を決定するかは確定していない」

次回9月会合以降の利上げペースは「データ次第だ」と強調。

「利上げするかもしれないし据え置くかもしれない」と明言を避け、利上げを見送る可能性にも言及した。

⇒ ECBの利上げは、今回が最後となる可能性が高まってきました。

ユーロは158円前後で「ダブルトップ」となったのではないのでしょうか。

連想売りからポンドも3円ほど円高となっています。

大きな方向性が今まさに転換しようとしています。

5: < ユーロ/円 ▼ 日足 ▼ ローソク ▼ Bid ▼ >



5: < ポンド/円 ▼ 日足 ▼ ローソク ▼ Bid ▼ >



③ 米 GDP

4-6月の米 GDP の伸び率は、予想の+1.8%を上回る+2.4%でした。

これを受けて一時米ドルは 141.31 円まで円安ドル高に。

その後、日銀による金融引き締めの可能性を示す報道があり、一気に 138.76 円まで円高となり、139.41 円で引けています。

かなり激しい値動きですね。

「円高基調の到来で円相場は年末に 1ドル=125 円をつける可能性がある」(スイス運用会社)

7月14日の 137.24 円を突破しますと、133 円前後に向かうと予想します。



5: < 米ドル/円 ▼ 日足 ▼ ローソク ▼ Bid ▼ >



5: < 米ドル/円 ▼ 週足 ▼ ローソク ▼ Bid ▼ >

